

# 言語障害のある子どもの教育相談におけるQ&A

国立特別支援教育総合研究所

## 言葉や読み書きが年齢相応ではないと言われていました。原因は何なのでしょう？

ことばの遅れの原因にはさまざまなものがあります。知的障害、聴覚障害（難聴）、広汎性発達障害、脳性麻痺などの中枢神経系の障害、養育環境の不適切さなどが原因として考えられます。

## ことば（発音）の不明瞭さは治るのでしょうか。治るとしたら、どのような対応をすればいいのでしょうか？

発音の不明瞭さの原因が何かによって予後は変わると考えられています。その原因は大きく二通りに別けられています。

一つは器質的構音障害です。

これは、構音に関わる様々な器官における生理的あるいは形態的な欠陥や異常が理由で生じる構音障害です。例えば、口唇口蓋裂のために鼻咽腔閉鎖機能が悪く息が鼻から漏れるために発音が歪むようなことがあります。また、麻痺性構音障害のように下や口唇などの構音器官に運動麻痺があり、そのため正しい構音操作ができにくくなっていることもあります。発音の不明瞭さの原因となっている障害の重軽によって予後が必ずしもいいとはいえないこともあります。

しかし、今より発語しやすい方法やコミュニケーションの取り方は改善されていくと考えられています。医学との連携を行いつつ指導を受けることが望ましいと思います。

二つ目が機能的構音障害です。

これは器質的な原因が見出せない構音障害を言います。誤った音の学習、二カ国語習得による混乱などが原因と考えられています。この機能的構音障害は、比較的予後がいいと言われていました。ただ器質的な原因がないといっても現時点で見いだすことができないだけかも知れませんので、専門家によるアドバイスをお受けになることを勧めます。

指導の方法は専門的なことがあるので、近くの「幼児ことばの教室」や通級指導教室

の「ことばの教室」へ行かれることをお勧めします。指導を受ける場はこれ以外にも教育センター、病院における言語外来、リハビリセンターなどがあります。ことばの教室は教師が指導に当たりますが、それ以外はスピーチセラピストが当たります。

家庭や担任の先生は、子どもの話し方や発音にばかり注意を向けて言い直しをさせるのではなく、何を伝えたいのかに留意して、子どもとやりとりをしてください。

### 食事の食べ方と言葉の遅れとは、関連がありますか？

食べ方(咀嚼)にも一定の発達の順序があります。この事は単に食べる事だけでなく、顔の表情や言葉の発達とも深い関係があります。食べ方の発達は、口唇を閉してごくと飲み込む(唇食べ)→舌を上下に動かして舌でつぶして食べる(舌食べ)→舌を上下に動かして歯ぐきでつぶして食べる(歯ぐき食べ)→乳臼歯で噛んで食べる(乳歯食べ)となって順々に発達していくのです。

食べることは、口とその周辺の多くの器官や呼吸器官などの協調、統合を必要とする複雑な運動です。そして、正しい音を発音するにもこれらの器官がうまく働く必要があるのです。

### 言葉が遅れているので、家庭でできることを教えてください。

家族がよく話しかけ、しっかりとコミュニケーションを取ることが重要です。目に映る具体物の名称を正しく伝えることや手遊び歌と一緒に楽しむことなどを行ってください。

一方的に教え込むのではなく、会話をすることが楽しいと経験できるように心がけてください。

### 言葉がない子どもの、家庭での行動面やコミュニケーションについて、具体的な対応について教えてください。

子どもが理解できるように、ゆっくりとはっきりした言葉で話しかけることが重要で

す。特に、これから行動すること（たとえば食事をする、散歩に出かける）を言葉で伝えて（たとえば、ご飯を食べようね、お出かけしようねのように）から、行動に移してください。写真や絵カードの提示も良い方法です。カード等の提示にも必ず言葉を添えましょう。

## 言葉の発達について教えてください。

言葉の発達の目安としては、次のようになります。

### ★2～3 ヶ月ごろ

「アー」「ウー」などといったクーイング（喃語＝なんご）から始まります。

### ★5～6 ヶ月ごろ

喃語が増えてきて、声を出すことでうれしい、気に入らないなどの簡単な意思表示ができるようになります。

### ★10 ヶ月ごろ

大人が「ちょうだい」と手を出すとおもちゃを渡せるなど、簡単なことなら大人の言うことがわかり始めます。

### ★1才ごろ

伝えたい気持ちが大きく育ち、自分が知っているものを「アッ」と盛んに指さしをするようになり、初めて「ワンワン」「マンマ」など意味のある言葉が出ます。その後、話す単語はどんどん増えます。

### ★1才6ヶ月を過ぎたころ

「ママ」「来た」などの、単語を5個以上話し始めます。これからは急激に語彙が増えます。

### ★2才6ヶ月ごろ

「パパ、会社に行った」など名詞と動詞を組み合わせ、3～4語で文章を構成して話すようになります。

### ★3才ごろ

「だから、〇〇ちゃんはね、お菓子が食べたいの」など、間投詞や接続詞を使って文を構成して話すようになってきます。間違いはあるものの、日常生活に支障はない文法や言葉がほぼ習得されます。3~4才くらいまでが言葉の獲得のピークとなります。

全体に発達が遅れているのではないかと考えています。就学に対してどのように考えればいいのか教えてください。

お子さんの状態によって、就学先は様々です。まずは、地元の教育委員会に相談してください。お子さんの状態と地元の学校の様子について教えてください。就学先について、一緒に考えてくれると思います。一般的には、通常学級の中で配慮を受けながら指導を受ける場合、通常学級に在籍しながら部分的に通級指導教室で指導を受ける場合、特別支援学級に在籍して指導を受ける場合、特別支援学校に在籍して指導を受ける場合などが考えられます。

サ行等の特定の音が出ません。どうしたら正しく話せるようになるか教えてください。

特定の語音を多少なりとも習慣的に誤って発音する状態を「構音障害」と呼んでいます。まず、特定の語音を作り出す運動がうまくできない原因が何か。どのような誤り方になっているのか。どのようなことばの時に誤るのか等を調べる必要があります。その上で、一般的な方法ですが、以下のような順序で指導をしていきます。

口腔内の動きを良くする練習をします。例えば固いものを食べることができるようにする、ストローで飲むことができるようにする、風船をふくらませるようにする等の練習をします。

音を聞き分ける練習をします。間違っって話す音と正しい音をきちんと聞き分けることができるかを練習します。

正しい音を出す練習をする。この段階では漸次接近法や位置づけ法等といった専門的

なテクニックを使って発音の練習をします。

習熟練習をします。ことばの語頭、語尾、語中といったようにどの位置に学習している語音があっても正しくいえる練習をしたり、文章の中でも話せる練習をしたりして行きます。

しかし、発音練習といってもその状態像が様々で、家庭でやってうまくいかないこともあります。お住まいの近くに「幼児ことばの教室」や小学校の中に「きこえとことばの教室」といった通級指導教室がありますので、こうしたところで相談されることをお勧めします。

**どもりがあるように思えるが、どのような対応がいいのか教えてください。**

どもる状態を「吃音」と呼んでいます。吃音になる原因はよく分かっていません。3～4歳頃や小学校に入学する頃に吃音に気付くことが多いことや、こうした子どもの7～8割は成人になる頃には良くなっていることが統計学的には分かってきています。しかし、どのような子どもが良くなる7～8割となり、どのような子どもが吃音を残す2～3割なのかが科学的にはよく分からないのです。

そのため、成人になっても吃音が残ったとしても自分の人生を楽しく有意義に過ごすことが出来るように幼いときから指導を行うことが考えられます。

たとえば多少どもったとしても最後まで話したかったことを話すようにすること、どもるからといって自分を卑下したり、やるべきことを吃音のせいにしてやらなかったりすることがないようにすること、家に閉じこもって友達と関わらなくならないようにすることなど、様々な指導が試みられています。自分の好きなことや得意なことを育てることも大切です。

こうしたことも、近くの「幼児ことばの教室」や小学校の「きこえとことばの教室」でご相談ください。